

2025年9月8日

苫小牧市長
金澤 俊 様

苫小牧港の軍港化阻止実行委員会
実行委員長 横山 傑
【公印省略】

第7師団の長距離機動訓練（戦車の公道自走）の中止を求める要請書

日頃の市政へのご精勤に敬意を表します。

さて、陸上自衛隊北部方面隊第7師団は、「令和7年度長距離機動訓練」として、9月10日(水)21時に戦車11両を含む装軌車両19両が千歳市東駐屯地を出発し、苫小牧西港まで公道自走訓練を行うことを発表しました。

深夜の騒音は安心・安全な生活を願う市民にとって非常に不快なものであり、睡眠に支障をきたしかねないものでもあります。環境基本法による騒音基準では、午後10時から午前6時までの間、騒音基準を超えた走行を規制しています。また、騒音規制法に基づき、自動車の騒音の許容限度は昼間でも最大で75デシベルまでと規制されており、周辺の生活環境が損なわれている場合には、市町村長は道の公安委員会に対して道路規制などの措置をとるよう求めることができると明記されています。市にはこれを踏まえた対応が求められます。

また、苫小牧市は、2002年に「苫小牧市非核平和都市条例」を制定しています。恒久平和と核兵器のない平和の実現に向け努力することを謳う苫小牧市の公道や港湾施設が軍事利用されることなどあってはなりません。

今回で11回目となる同様の訓練が実施される都度、私たちは市に対して今回と同様の要請を重ねてきました。たしかに、市として戦車等の公道走行自体を拒否することは難しいのかもしれませんが、このような訓練が行われることに対し、反対する市民の声があることを関係機関に伝えていただきたいと思います。また、これまでも、市民の安全と安心を確保するために必要な申し入れを関係機関に対して行うとともに、騒音の測定など必要な対応を行い、訓練に関する情報をホームページへの掲載を通して市民に周知していただいていたことに対しては、その努力に感謝するとともに敬意を表します。今後も市として可能な対応を重ねていただきたく、重ねて要請いたします。

私たちは、主権者である国民にその必要性すら丁寧に説明されることなく、多額の経費をかけ、日本の防衛のために必要とすら思えない内容を含む訓練がその規模を拡大しながら毎年行われていることに対し、「苫小牧市非核平和都市条例」を誇りに思う市民として強い違和感を覚えると同時に、市民の生活空間が少しずつ軍事に浸食されていくことに強い懸念を抱かずにはいられません。

戦争の惨禍を二度と繰り返さないことを誓い平和憲法を制定した国民の一人として、非核平和都市条例を持つ市民の一人として、今私たちには戦争そのものを根絶していくために一つ一つその要因を取り除いていく努力を着実に重ねていくことが求められているのではないのでしょうか。国の政策に盲目に追随するのではなく、批判的にそれを検証していく姿勢に立つとき、今回の訓練自体の必要性にも大きな疑問を感じずにはいられません。

以上の趣旨から、貴職に対し下記の項目を要請しますので、ご多用の中お手数をおかけしますが、速やかにご回答下さるようお願いいたします。

以上

記

1. 戦車等が多く住民にとって安穏であるべき夜間の時間帯に公道を自走し、住宅街を通過することは市民生活にも悪影響を与えるものであることを踏まえ、住民に不安や迷惑等を与えることがないように自衛隊に申し入れを行うこと。
2. 苫小牧市内で、午後10時から午前6時までの間に陸上自衛隊の戦闘装甲車の公道走行の実施が予想される場合は、適切な地点を設定し騒音調査を行うこと。その結果も含め、可能な限り詳細な情報を市民に適切な形で提供できるようにすること。
3. 「非核平和都市条例」を有する苫小牧市の公道で戦車等の自走訓練が行われることへの懸念を有する市民の声があることを、市長は市民を代表する立場として関係機関に伝えること。